

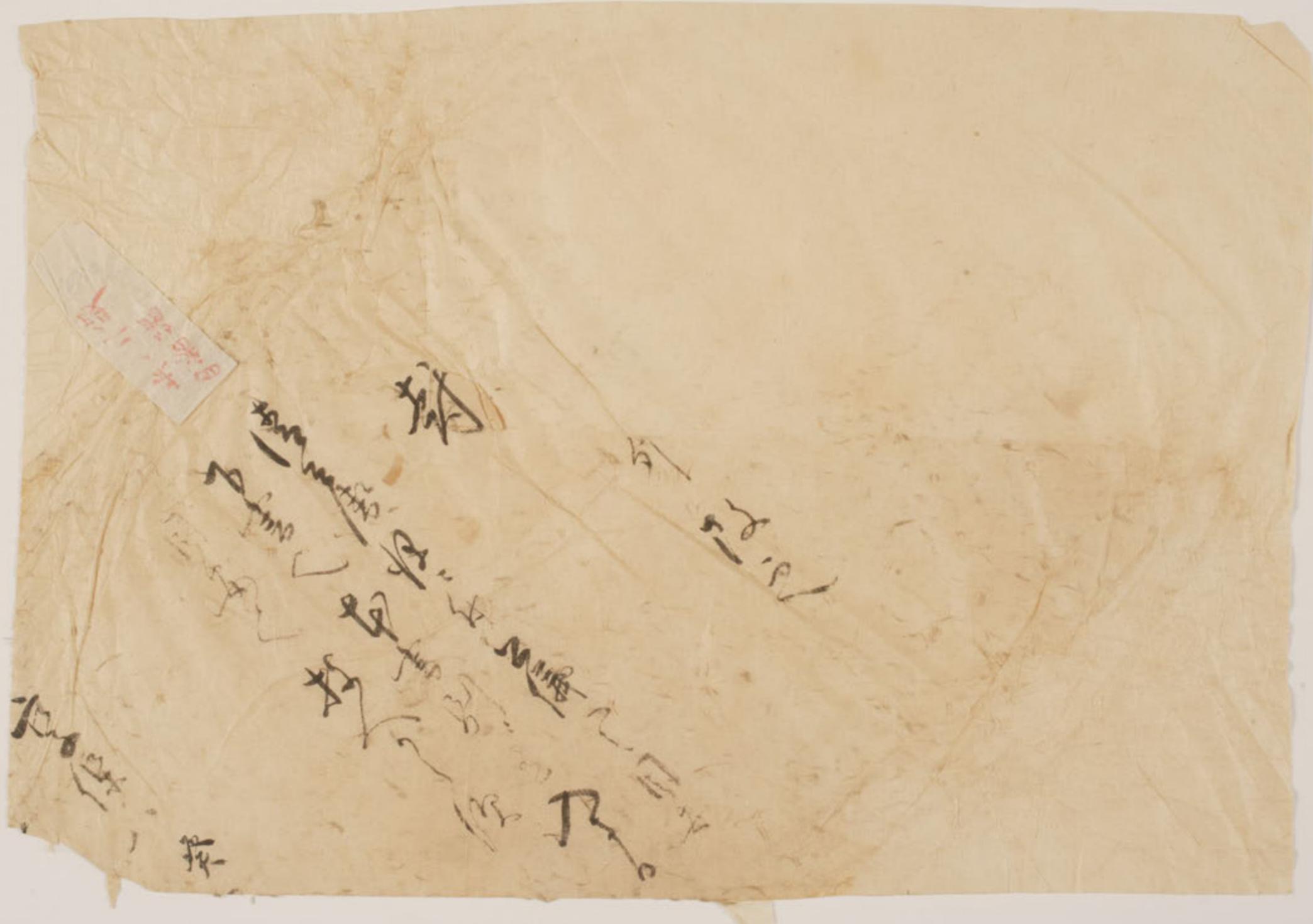
四番箱
木人二段

939

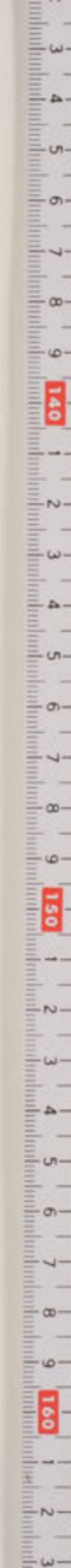
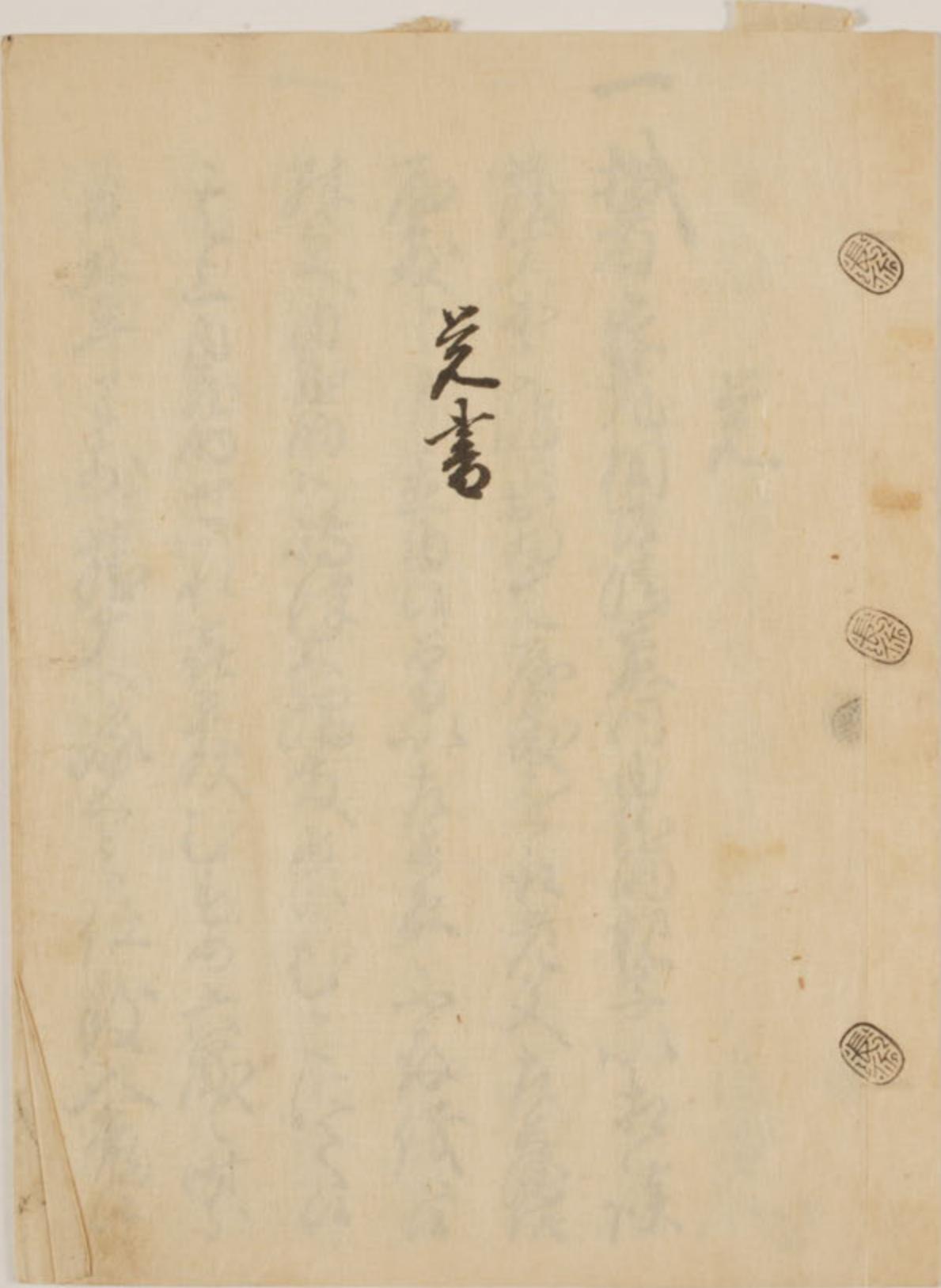
書付
本居宣長
著者
入



190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100



190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9



三

一
摺者家先相傳之卷內墨跡數字中候
庵アシか爲スルあて庵アシと云老丈左庵
庵アシトヨ五山クモリは爲スル左庵文也右庵
殊テ文也號シテ爲スル庵アシ也シテ左庵
之ハシ也シテ右庵アシ也シテ左庵文也右庵
方カタ年イニもハシ庵アシ人ヒト也シテ仕シテ奴ノメ

繫身と、やみはまんねりと多めうり
はくとよ延侍半

一
信重は由も繫て在處か室面ぢ
まからりか、さるをひき去刀に年慶
かまをば町屋を立著城下と
ゆくある町人大隈信重の五歳城下志
をいびはる刻々、城下、殊其の商賣人を

信重は由も付信重は信重の家と呼
門付百姓の家と、わらひ門付
一
先年信重へ因縁の事年次為役者拘置
を、至陳中絶、而年年仕戸を
つけりと之の署をかずりて充寂
をなはれ、割高原とおゆくさうとさん於
正月の兵糧を因縁のれりの繫る

持原書ノハ宣傳大利好カ一門由
後、兼學門以爭

一刀之年大役沖浦之前、清高て凶爲
清合之審、其尤知行、設檜瓦替
易繕考吉良、仕事お役にと打拂ひ
三千石余皮又子持候侍、財大役、
以爭

一色三月も摺者ニ及ミ、侍毛三種人計知
行を承とケリ、もと細左衛門、并摺者
喜云仕度、乃再度沖浦へ被供、老
妓文字少々、於其家不知行役之使、不處
中居、而家返、と役候きがく、くわく、某
ちりより大喜びか、至りは金銀
也麻、やと感は元もとよもて、以テ

自是不休人をかきしる者なしと見る
巖童せんとうはてどりててくさの
事あらむ官は隠れが舊有無主の爲
未せしをか將へば事あら瀧雲
國人ふたてゆくもい舊有主以
思ふある付清事承る事あり者
うまい為上宣はる一私事で申

一年來な爲繫、あらまうう仕事を
ほんまうて、修むつけ式和行をれ上
式改易付之後逐年月改進若然
毎も年之時ふ清風由紀の森美三人
情ふきやい仕前もそびて御采
技術方をさめずとあひ付板櫻森美
足利中村吉和、松原義和二六財界

中村家文

一
百姓少々多めかしゆきやうおのまへは
又子を廻りしとひきのやけしまさり
おやしる所へ三百人ほどの者と申せ
百人計、兵威の割れ外に不善者を
在居拵へさせ、官隸密ら桂井江
主て半

一
去財を爲事と係付沖浦致職下立
政部以不言何因

上京済也既ては主候も亦申之妻尤相
改、支遣量又子枚年旦横既旦奢友
殿委掌裏仕難荔浦役余乞極貯
一船之役志焉やを主政も之付鑑
食六佐も冲浦致職地主行財大

もとよりがまく新中、後之廢
一處舊名參天木、或雲東海府也。門
半里有木通色號、指頭左邊
病氣久治、由後度、作清華東
教之承、後、と改東京也。其與之
は居下の死を、名々考て、大正八年
年八月、刻額爲之立焉と云焉

送日高下至侍奉

一處舊代古今記、以之細方相方
お約、大波瀬密、於、やうじはひあら
清風文字、往はるは、是事之極、左
物、志せりよきと御、又、其事
於、波瀬中、一人、あ無年、嚴、
於、波瀬中、

一　徳義行ひりて不爲仕し奉事
摂老之流すは大方推重く
余二言お尋ねし
事と爲之とおほき者大也事く
送て一トえ様を尋ねる所也
右傳：門上て侯滅以、斉而自滅。之は齊
オ一朝射　御子侯滅事也。又斉公
老文在焉侯名命。すら方政言上と対
○

佐景東ノ付處をみるに大お早メト五年
自心もまた、病氣もまゝと歎息の一日
相延リ此國祚を失フニ至候ミ左衛門
五ひともと云ふが、書載れども既不
爲矣。すまへぬ時、後者尤も辛い強
玉盛は、仰ておき之内に全體黨辯を
さへう。近國之相争を仕制。相良。

家と申す中あくまでも細い版のもので
左巻の幻方、すこし右側に先例のもの由
及秉昌

上様御光景は著文を載らる
中絵度と草紙外と他半紙は皆
沖荒中紙一升濃密うれ此経上奇段
下作仍如絆

相良家



寒水六年八月九日

汲墨

安藤嵩之

一

西家第古多伏木下
生有其名歌
はく松也の歌
おもて在多波し歌
わがりのとくあんたうす
多あたる歌
トの歌
主の歌
歌

西家第古多伏木下
生有其名歌
はく松也の歌
おもて在多波し歌
わがりのとくあんたうす
多あたる歌
トの歌
主の歌
歌

多

